

IRNAVI

アイアール
ナビ
vol.27

株主の皆様へ／代表執行役社長 越智 仁

●第11期決算のご報告

もっと知りたい！三菱ケミカルホールディングス
新中期経営計画「APTSIS 20」がスタート!!

“KAITEKI実現”

チャレンジ!! KAITEKI

耐熱性に優れた「マフテック」で
省エネや自動車の排ガスクリーン化に貢献

証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第11期 期末のご報告

2015年4月1日 ▶ 2016年3月31日

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期における当社グループの事業環境は、機能商品分野及び素材分野においては、原料価格が下落する中、石油化学関連製品の市況が堅調に推移し、また、ヘルスケア分野においては、薬剤費削減策の影響等があるものの、ロイヤルティ収入の増加等もあり、好調に推移しました。このような中で、当社グループは、当期が最終年度となる5カ年の中期経営計画「APTSIS*15」のもと、ポートフォリオ改革を推進し、水島地区におけるエチレンプラントの統合を始めとする石油化学事業の構造改革を行うとともに、さらなる成長・飛躍に向け、海外を中心に事業展開を加速させました。さらに、協奏によるグループ総合力の強化に努めるとともに、収益改善に向けて、徹底したコスト削減、資産圧縮等の諸施策にグループを挙げて取り組みました。

当期の連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りですが、売上高は3兆8,230億円となり、利益面では、営業利益は2,800億円、経常利益は2,706億円、親会社株主に帰属する当期純利益は464億円となりました。

当期の期末配当金につきましては、固定資産の減損損失等により、親会社株主に帰属する当期純利益が前期に比べて減少したものの、中期的な収益基盤の強化・底上げを図り、営業利益が最終年度の計画値を達成するとともに、当社として過去最高益を計上したことから、配当の基本方針及びこれらの状況等を総合的に勘案して、前期に比べて1円増配し、1株につき8円とさせていただきます。

当社は、昨年12月に、2016年度から2020年度までの5カ年の新中期経営計画「APTSIS 20」を策定しました。その概要は

CONTENTS

- 株主の皆様へ……………1
- 連結業績の概要……………2
- セグメント別業績……………3
- 各事業会社の活動・トピックス……………5
- もっと知りたい！三菱ケミカルホールディングス新中期経営計画「APTSIS 20」がスタート!!……………7

後記の通りですが、「機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす」を基本方針として、収益性の向上、イノベーションの追求、サステナビリティへの貢献を通じて真にグローバルな「THE KAITEKI COMPANY」としての基盤を確立するための諸施策を実行してまいります。

また、安全管理の徹底はもとより、コンプライアンスやリスク管理の徹底、内部統制の強化を一層進めてまいります。

当社グループは、これらの経営諸課題にグループの総力を挙げて対処し、企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月

代表執行役社長
越智 仁



- “KAITEKI実現”チャレンジ!! KAITEKI……………9
- 財務諸表の概要……………11
- 株式の状況……………13
- 会社概要……………14

連結業績の概要

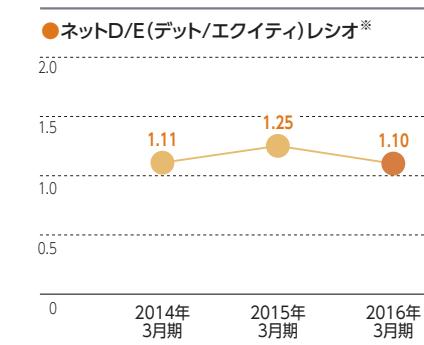
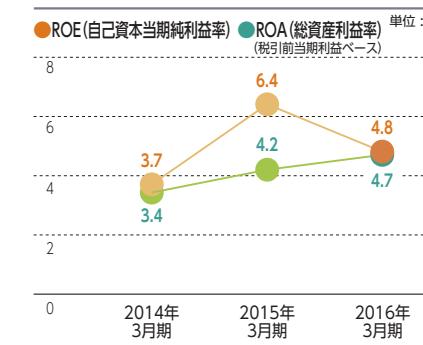
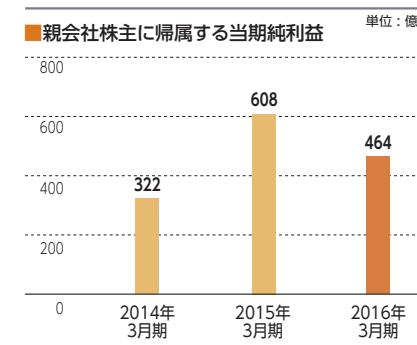
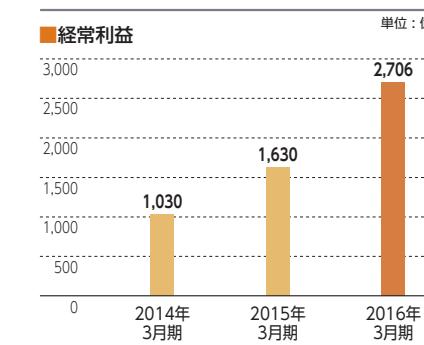
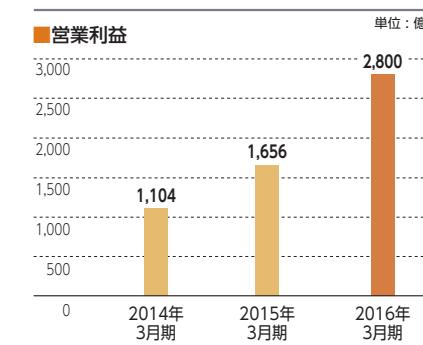
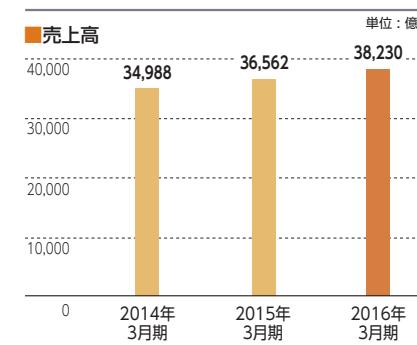
緩やかな景気回復が継続する中、過去最高の営業利益を計上しました。

需要が回復傾向の中、事業環境は概ね堅調に推移

当期は、中国の景気減速など一部に弱さがみられたものの、総じて国内外の緩やかな景気回復が持続し、事業環境は概ね堅調に推移しました。当期の連結業績は、売上高は3兆8,230億円（前期比1,668億円増）となり、利益面では、営業利益は2,800億円（同1,143億円増）、経常利益は2,706億円（同1,075億円増）となりましたが、固定資産の減損損失もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は464億円（同144億円減）となりました。

ネットD/Eレシオが0.15ポイント改善

総資産は、在外連結子会社の円貨換算額が減少したこと及び有形固定資産に対し減損損失を計上したこと等により4兆615億円（前期末比2,614億円減）となり、また、負債は、短期金融債務の減少等により、2兆5,070億円（同2,273億円減）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.10となりました。



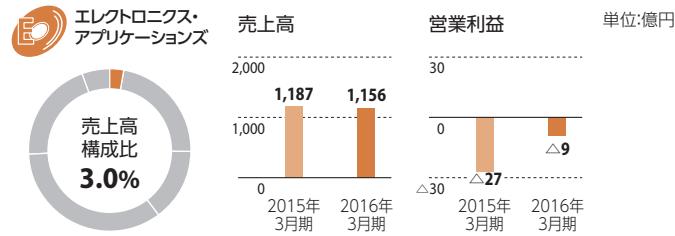
※「APTSIS」とは、Agility（俊敏に、とにかく速く）、Principle（原理原則・理念の共有）、Transparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、Sense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、Internationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、Safety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

※ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
 ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - （現金・現金同等物+手元運用資金残高）} ÷ 自己資本
 ※2016年3月期より「企業結合に関する会計基準」等の改正に伴い当期純利益の表示を変更しております。

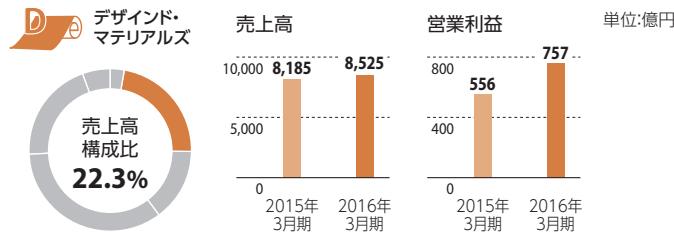
セグメント別業績

()内の数字は前期比

機能商品



エレクトロニクス・アプリケーションズセグメント
 《売上高》1,156億円(31億円減)
 電子関連製品… ディスプレイ材料及び半導体向け精密洗浄等の販売数量が増加
 記録材料 … 光ディスク市場の縮小が継続
 情報機材 … OPC及びトナーの販売数量が減少
 《営業利益》△9億円(17億円損失減)
 固定費の削減等により損益改善



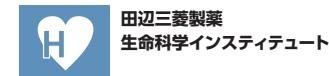
デザイン・マテリアルズセグメント
 《売上高》8,525億円(339億円増)
 樹脂加工品… エンジニアリングプラスチック関連製品及びアルミ樹脂複合板の販売数量が増加
 精密化学品… コーティング材料等の需要が堅調に推移
 電池材料 … 自動車用電池向けの販売数量が増加
 複合材 … 炭素繊維の需要が概ね堅調、アルミナ繊維の販売数量が増加
 《営業利益》757億円(200億円増)
 原料価格の下落等により増益



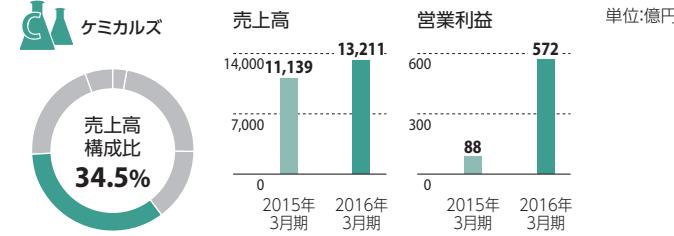
ヘルスケア



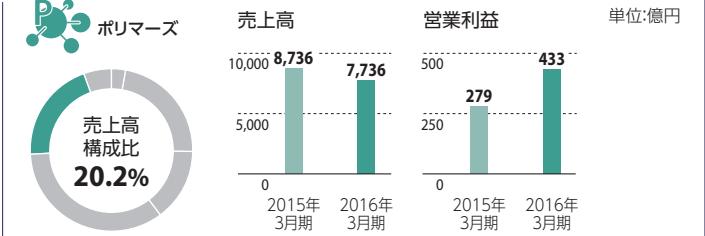
ヘルスケアセグメント
 《売上高》5,540億円(221億円増)
 医薬品 … 一部製品のロイヤルティ収入が増加
 診断製品及び臨床検査… 販売が増加
 《営業利益》1,034億円(264億円増)
 ロイヤルティ収入の増加等により増益



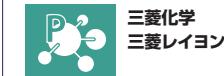
素材



ケミカルズセグメント
 《売上高》1兆3,211億円(2,071億円増)
 基礎石化製品、化成品及び合成繊維原料
 … 原料価格の下落に伴い販売価格が低下
 炭素製品… 原料炭価格の下落に伴いコークスの販売価格が低下
 産業ガス… 前期第3四半期から売上高を計上
 《営業利益》572億円(484億円増)
 基礎石化製品及び化成品において、市況が堅調に推移したことにより増益



ポリマーズセグメント
 《売上高》7,736億円(999億円減)
 合成樹脂… 原料価格の下落に伴い販売価格が低下
 《営業利益》433億円(153億円増)
 製品と原料の価格差の改善による増益



その他



その他
 《売上高》2,060億円(66億円増)
 エンジニアリング事業… 当社グループ以外からの受注が増加
 物流事業 … 堅調に推移
 《営業利益》72億円(12億円増)
 エンジニアリング事業の増収等により増益



※2016年3月期より、「ケミカルズ」の一部事業を「デザイン・マテリアルズ」及び「ポリマーズ」へ、また、「その他」の一部事業を「デザイン・マテリアルズ」へ、それぞれ所属するセグメントを変更しております。これに伴い、比較情報としての2015年3月期実績を組み替えております。

各事業会社の活動・トピックス

三菱化学

機能商品

- 三菱化学フーズ(株)が、エーザイ(株)との間で、同社の子会社であるエーザイフード・ケミカル(株)の全株式を取得する株式売買契約を締結し(昨年11月)、同社を連結子会社化(本年2月)
- バイオエタノールの製造プロセス向けに、ゼオライト膜を用いた脱水システムのマーケティングを大陽日酸(株)の米国子会社の販売網を通じて開始(昨年12月)

素材

- スズキ(株)と共同で植物由来プラスチック「DURABIO」の新規グレードを開発し、同社の新型車「アルト ラパン」の内装樹脂カラーパネルに採用(昨年6月)
- 「DURABIO」がシャープ(株)の新型スマートフォン「AQUOS CRYSTAL 2」の前面パネルに採用され(昨年7月)、同社とともにバイオプラスチックアワードを受賞(昨年11月)



DURABIOが採用されたスマートフォン「AQUOS CRYSTAL 2」

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- 「ラジカット」(一般名:エダラボン)の、筋萎縮性側索硬化症(ALS)について、日本及び韓国においてそれぞれ承認取得(昨年6月、12月)

- アケビア社(米国)との間で、慢性腎臓病に伴う経口貧血治療剤「バグデュスタット」に関する日本及びアジア(中国を除く)における独占的開発・販売権に係る協業契約を締結(昨年12月)
- 米国での事業基盤拡充のために医薬品の販売会社としてMT ファーマアメリカ社を設立(本年2月)
- 肝臓に直接作用することに特化した新タイプの胃腸薬「タナベ胃腸薬ウルソ」を販売開始(本年3月)
- アステラス製薬(株)との間で、自社合成化合物を相互に交換・利用する提携契約を締結(本年3月)



「タナベ胃腸薬ウルソ」CMソングには八代亜紀さんを起用

三菱樹脂

機能商品

- 三菱樹脂光学フィルム(無錫)社(中国)が光学用ポリエステルフィルム加工製品の製造・販売を開始(昨年7月)
- 子会社のミツビシポリエステルフィルム社(米国)が、ポリエステルフィルムの生産能力を増強することを発表(昨年10月)
- 通常の約10倍の酸素バリア性を有するハイバリアPETボトルが、8つの蔵元の純米酒を集めた「JUNMAI SAKE」シリーズに採用(昨年11月)

- 医薬向け錠剤・カプセル包装用防湿シートの新シリーズ2品の製造・販売を開始(昨年11月)



包装用防湿シート

三菱レイヨン

機能商品

- 三菱化学(株)の子会社である(株)新菱と共同で、炭素繊維リサイクルの事業化を推進することを決定(昨年4月)
- 繊維事業の競争力を強化するため、子会社のMRCパイレン(株)及び三菱レイヨン・テキスタイル(株)を吸収合併(本年4月)
- 炭素繊維・複合材料事業の強化・拡大を図るため、炭素繊維強化プラスチックの中間基材の生産工場をバイエルン州(ドイツ)に新設することを決定(昨年10月)
- 多様化する事業環境に対応するため、アクア・ソリューションブロック所管のグループ会社の本社及び三菱レイヨン(株)の凝集剤事業部等を一拠点(東京都品川区)に集約(昨年11月)

生命科学インスティテュート

ヘルスケア

- 子会社の健康ライフコンパス(株)が提供する「じぶんからだクラブ」のウェブサイト健康全体をサポートする生活習慣改善ポータルサイトとしてリニューアル(昨年10月)

- 子会社のクオリカプス(株)が、ジェニックス・インドゥストリア・ファルマセウチカ社(ブラジル)の全株式を取得し、同社を連結子会社化(昨年12月)



ジェニックス・インドゥストリア・ファルマセウチカ社

大陽日酸

素材

- 子会社のマチソン・トライガス社(米国)が、カリフォルニア州南部に空気分離装置の新設を決定(昨年7月)
- TNSC(オーストラリア)社を新たに設立し、同社を通じて、レネグードガス社(オーストラリア)を買収(昨年7月)
- 新日鐵住金(株)との合併会社である八幡共同液酸(株)が、新日鐵住金(株)八幡製鐵所の空気分離設備等に関する全業務の移管を受けるとともに、増資や商号変更等を行い、(株)八幡サンソセンターとして発足(本年1月)
- JFEスチール(株)との合併会社で、子会社の(株)JFEサンソセンターが、新たに倉敷工場を設立し、JFEスチール(株)西日本製鉄所(倉敷地区)の産業ガス製造事業の移管を受けることを決定し、また、大陽日酸(株)が、同工場内に国内最大級の空気分離装置を新たに2基導入することを決定(本年3月)

新中期経営計画「APTSIS 20」がスタート!!

「APTSIS 20」の基本方針と施策

2020年のあるべき姿

収益性の向上、イノベーションの追求、サステナビリティへの貢献を通じて真にグローバルな「THE KAITEKI COMPANY」としての基盤を確立する

基本方針

機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、**高成長・高収益型の企業グループをめざす**

成長

- ▶ ポートフォリオ・マネジメントを通じた持続的成長と収益力強化
- ▶ 海外事業の収益性強化
- ▶ 新エネルギー事業の早期収益化
- ▶ グループの協奏・インテグレーション促進
- ▶ 化学系の3事業会社統合による競争力強化

効率性

- ▶ 生産性の高い企業体質の実現
- ▶ 不採算事業と低収益事業の抜本的な対策

基盤強化

- ▶ 保安安全・コンプライアンスの徹底
- ▶ グローバルマネジメントの深化
- ▶ 財務基盤の強化

2020年度の目標 財務指標(国際会計基準ベース)

コア営業利益*	3,800億円
ROS	8%
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,800億円
ROE	10%以上
ネットD/Eレシオ	0.8
海外売上高比率	50%

※コア営業利益：国際会計基準に基づく営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いた経常的な収益

「APTSIS 15」の成果

「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍の実現」との基本方針のもと、以下の施策を実施しました。

- ポートフォリオ改革による事業基盤の強化と規模拡大
- 設備投資及びM&Aによる海外事業拡大
- コーポレートガバナンス体制の強化
- サステナビリティ基軸を経営へ導入
- 石油化学事業の構造改革

2015年度の営業利益は過去最高を計上し、目標達成

経営目標項目	2015年度目標	2015年度実績
連結営業利益	2,800億円	2,800億円
連結ROA	7%以上	4.7%
ネットD/Eレシオ	0.8	1.10
海外売上高比率	45%以上	43.4%

事業戦略

機能商品

方針 協奏・インテグレーションにより成長を加速し、高機能商品、ソリューションをグローバルに提供

高機能成形材料

高機能エンジニアリングプラスチック製品や炭素繊維・複合材料等各種成形事業の統合により、エネルギー・大型産業用途(自動車、航空機、建築構造物等)の分野をターゲットに、事業の効率化と市場へのアクセス力を強化させる。



BMW i3 (当社グループの炭素繊維を使用)

素材

方針 ・コスト競争力強化による収益安定化
・グローバル市場における成長加速とプレゼンス強化

産業ガス

・豊富な経験と独自の技術開発を背景に、多種多様な産業分野の基盤を支える産業ガスを安定的に供給し、グローバル展開の加速による事業拡大を図る。
・成長市場として期待されるエネルギー、医療、環境分野でオリジナリティのある製品やシステムを提供することで社会に貢献する。



マチソン・トライガス社(米国) 空気分離装置

ヘルスケア

方針 ・医薬品事業のグローバルな成長
・ICTを活用した健康医療事業、及び再生医療事業の推進と確立

医療用医薬品

自社の新薬創出力とオープンイノベーションの活用により研究開発パイプラインを強化するとともに、国内販売における新薬・重点品の価値最大化を図り、米国での事業基盤の構築と製品ラインアップの構築により、持続的成長基盤を確立する。



筋萎縮性側索硬化症(ALS)について米国で承認申請中の「ラジカット」

三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨンの3社を統合

当社は、2017年4月に三菱化学(株)、三菱樹脂(株)、三菱レイヨン(株)の化学系3社を「三菱ケミカル(株)」として統合することを決定しました。

会社や組織の壁を取り払い、グループ内の相乗効果を発揮させていくとともに、経営環境の変化に迅速に対応し、事業の

成長を図るために、3社のもつ経営資源を最大限活用できる体制を構築します。

三菱ケミカル(株)は、各事業の方向性をより明確化した上で10の事業ユニットに再編し、生産性向上によるコスト競争力の強化も図ってまいります。

“KAITEKI実現”

KAITEKIとは、時を越え、世代を超え、人と社会と地球の心地よい状態が持続することです。そのKAITEKI実現に向けた当社グループの取り組みをご紹介します。

熱や酸に強い有孢子性乳酸菌「ラクリス」が KAITEKIな腸内環境をつくれます

当社グループの三菱化学フーズ㈱は、「おいさと健康をもっと身近に」をモットーに、化学品合成、バイオ等の技術基盤を活かして、乳化剤、ケーキ用起泡剤、乳酸菌、酵素剤、機能性糖質、天然色素、抗酸化剤などの食品機能材を提供しています。

私たちの健康維持に深く関わる腸内環境を改善する食品素材として、注目が高まっている乳酸菌。食品に利用される場合は、ヨーグルトや乳酸菌飲料などが一般的ですが、通常の乳酸菌は、熱や乾燥、胃酸などの酸に弱く、その効き目が限定的になるなどの弱点があります。

この点、三菱化学フーズ㈱の「ラクリス」は、これら乳酸菌の弱点を克服する「有孢子性乳酸菌」で、孢子という

天然のカプセルを有しているため、熱や乾燥に対する安定性に優れ、また酸にも強いので、生きたまま腸に乳酸菌を届けることができます。このような有孢子性乳酸菌を世界で初めて工業化したのが「ラクリス」であり、三菱化学フーズ㈱の独自技術となっています。

「ラクリス」は、これらの特長を活かし、粉末茶や菓子、タブレットなどの様々な加工食品や健康食品に使用されており、今年発売50周年を迎えます。

三菱化学フーズ㈱は、これからも科学の力を基本に、「もっとおいしく」「もっと健康に」「もっと手軽に」食の進化を後押しするとともに、安心・安全に裏打ちされた製品をお届けし、信頼される食の提供者であり続けます。



ラクリス乳酸菌入りお茶「パウティー」
(柳屋茶業にて販売)
こちらの商品は下記のホームページより購入できます。
<http://www.yanagiya-charaku.jp/>



体内での有孢子性乳酸菌の活動



チャレンジ!! KAITEKI

耐熱性に優れた「マフテック」で 省エネや自動車の排ガスクリーン化に貢献

優れた機能を発揮します

三菱樹脂㈱のアルミナ繊維「マフテック」は、アルミナ(酸化アルミニウム)とシリカ(二酸化ケイ素)を化合するという独自の製法により、断熱性、耐風食性やクッション性だけでなく、耐熱性にも優れ、約1,600℃の超高温下でも安定した機能性を発揮します。このことから、主に、製鉄所などの産業・工業用の断熱材として利用されてきました。また、「マフテック」には、約1,000℃でもクッション性を維持するという、もうひとつの優れた特長があり、自動車の排ガス処理装置のサポートマットとして、世界中で採用されています。アルミナ繊維市場におけるシェアは世界一です。

耐熱性

安定した結晶構造により、収縮することなく最高1,600℃まで対応可能です。高温でも優れた耐熱性と寸法精度を誇ります。

クッション性

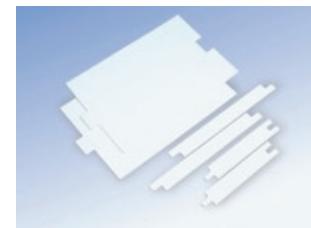
独自の製法により、繊維がしっかり絡み、厚みが均一でムラの少ない製品に仕上がります。また、高温下でも弾力性が損なわれません。自動車の排ガス処理装置では、走行中の振動に対するクッション性の高さも重要です。

断熱性

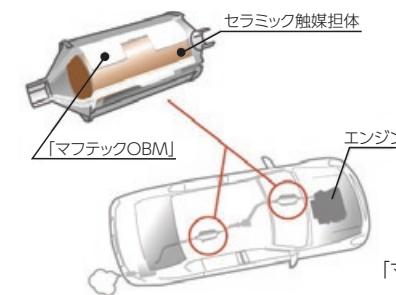
繊維と繊維の間の空気が熱の伝わりを遮断します。断熱効果により鉄鋼メーカーなどの加熱炉の壁に採用され、炉内の熱を逃がすことがありません。

耐風食性

独自の製法により、繊維は強く結束され、自動車の排ガスなどの激しい気流にも耐えます。



排ガス処理装置のサポートマット
「マフテックOBM」



「マフテックOBM」をセラミック触媒担体の周りに巻きます

「マフテック」の ここが KAITEKI

省エネに貢献しています

「マフテック」は、耐熱レンガに代わる新しい断熱材として開発された素材であり、鉄鋼メーカーなどの加熱炉の壁に使用されています。炉壁を炎から守るだけでなく、炉内の熱を逃がさず無駄が減るため、エネルギー消費を抑え省エネにも貢献しています。

世界中で自動車の排ガスクリーン化を 支えています

自動車の排ガス処理装置はかなりの高温になるため、処理装置を保護する材料には優れた耐熱性が要求されますが、「マフテック」は、超高温下でも安定した機能性を発揮します。また、自動車の走行中の振動や衝撃から触媒担体やフィルターを保護することで、自動車の排ガスのクリーン化を支え、国内外の自動車に搭載、世界中で活躍しています。

財務諸表の概要

連結貸借対照表

科目	(単位:億円)		科目	(単位:億円)	
	当期 [2016年3月31日現在]	前期 [2015年3月31日現在]		当期 [2016年3月31日現在]	前期 [2015年3月31日現在]
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	18,175	18,572	流動負債	13,462	15,659
現金・預金	3,147	2,361	支払手形・買掛金	4,083	4,593
受取手形・売掛金	7,039	7,598	短期金融債務	6,031	7,436
たな卸資産	5,478	5,955	その他	3,347	3,629
その他	2,549	2,704	固定負債	11,608	11,684
貸倒引当金	△ 40	△ 46	長期金融債務	8,625	8,599
固定資産	22,440	24,657	その他	2,982	3,085
有形固定資産	13,907	14,981	負債合計 Point 2	25,070	27,344
投資有価証券	2,669	3,557	(純資産の部)		
のれん	2,481	2,437	株主資本	9,002	8,746
その他	3,382	3,681	資本金	500	500
			資本剰余金	3,170	3,177
			利益剰余金	5,494	5,231
			自己株式	△ 162	△ 162
			その他の包括利益累計額	320	1,063
			新株予約権	5	4
			非支配株主持分	6,217	6,071
			純資産合計	15,545	15,886
資産合計 Point 1	40,615	43,230	負債及び純資産合計	40,615	43,230

連結株主資本等変動計算書

当期 [自2015年4月1日 至2016年3月31日]

(単位:億円)

科目	株主資本					その他の 包括利益 累計額	新株 予約権	非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計				
2015年4月1日残高	500	3,177	5,231	△ 162	8,746	1,063	4	6,071	15,886
当期中の変動額									
剰余金の配当			△ 205		△ 205				△ 205
親会社株主に帰属する当期純利益			464		464				464
その他		△ 6	3	△ 0	△ 3				△ 3
株主資本以外の項目の当期中の変動額 (純額)						△ 743	0	146	△ 596
当期中の変動額合計	—	△ 6	262	△ 0	256	△ 743	0	146	△ 340
2016年3月31日残高	500	3,170	5,494	△ 162	9,002	320	5	6,217	15,545

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	(単位:億円)	
	当期 [自2015年4月 1日 至2016年3月31日]	前期 [自2014年4月 1日 至2015年3月31日]
売上高	38,230	36,562
売上原価	27,795	28,261
販売費・一般管理費	7,634	6,644
営業利益	2,800	1,656
営業外収益	340	343
営業外費用	434	369
経常利益	2,706	1,630
特別利益 Point 3	382	588
特別損失	1,106	562
税金等調整前当期純利益	1,982	1,656
法人税、住民税及び事業税	808	604
法人税等調整額	118	86
非支配株主に帰属する当期純利益	591	355
親会社株主に帰属する当期純利益	464	608

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	(単位:億円)	
	当期 [自2015年4月 1日 至2016年3月31日]	前期 [自2014年4月 1日 至2015年3月31日]
税金等調整前当期純利益	1,982	1,656
減価償却費	1,803	1,512
たな卸資産	397	589
営業債権債務他	△ 297	△ 460
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,886	3,297
有形・無形固定資産取得	△ 1,806	△ 1,606
有価証券・投資有価証券取得	△ 1,935	△ 1,974
その他	1,713	808
投資活動によるキャッシュ・フロー Point 4	△ 2,027	△ 2,772
有利子負債	△ 1,099	336
配当金他	△ 469	△ 356
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,569	△ 20
現金・現金同等物に係る換算差額	△ 85	118
現金・現金同等物の増減額	204	622
現金・現金同等物の期首残高	2,430	1,795
連結の範囲の変更に伴う現金・現金同等物の増減	3	12
現金・現金同等物の期末残高	2,637	2,430

Point 1 **資産合計**
資産合計は、主に在外連結子会社の円貨換算額が減少したこと及び有形固定資産に対し減損損失を計上したことにより減少しています。

Point 2 **負債合計**
負債合計は、主に短期金融債務を削減したことにより減少しています。

Point 3 **特別利益・特別損失**
特別利益は、保有株式の売却により投資有価証券売却益が増加したものの、段階取得に係る差益が減少したこと等により減少しています。特別損失は、主に固定資産減損損失が増加したことにより増加しています。

Point 4 **投資活動によるキャッシュ・フロー**
投資活動によるキャッシュ・フローは、主に保有株式の売却に伴う投資有価証券の売却収入の増加により、支出が減少しています。

株式の状況

株式の状況

(2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	172,016名

大株主

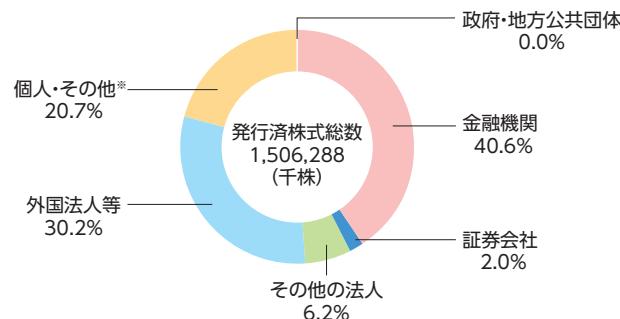
(2016年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	84,178	5.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	77,474	5.2
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.3
日本生命保険相互会社	42,509	2.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	31,105	2.1
東京海上日動火災保険株式会社	25,638	1.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	21,761	1.4
ステートストリートバンクウェストクライアントトリーティー505234	20,589	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	19,727	1.3
太陽生命保険株式会社	18,838	1.2

※上記のほか、当社が自己株式として41,485千株を保有しておりますが、上記出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布の状況

(2016年3月31日現在)



※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.7%)が含まれております。

会社概要

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒100-8251
東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
(パレスビル)
電話 03-6748-7200

資本金 500億円

取締役

(2016年6月24日現在)

小林 喜光	取締役会長	梅葉 芳弘	取締役
石塚 博昭	取締役副会長	浦田 尚男	取締役
姥貝 卓美	取締役副会長	橘川 武郎	社外取締役
越智 仁	取締役	伊藤 大義	社外取締役
三津家正之	取締役	渡邊 一弘	社外取締役
市原裕史郎	取締役	國井 秀子	社外取締役
ルン・フリクソ	取締役	橋本 孝之	社外取締役

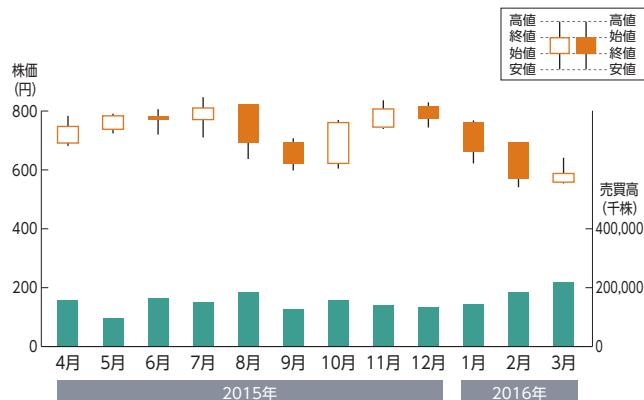
※当社は社外取締役である橘川武郎、伊藤大義、渡邊一弘、國井秀子及び橋本孝之の5氏を、(株東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

※各委員会の構成は次の通りです。
指名委員会:橘川武郎(委員長)、小林喜光、越智 仁、國井秀子、橋本孝之
監査委員会:梅葉芳弘(委員長)、浦田尚男、伊藤大義、渡邊一弘、國井秀子
報酬委員会:伊藤大義(委員長)、石塚博昭、姥貝卓美、橘川武郎、渡邊一弘

配当の状況

1株当たり配当金(円)			
	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
中間	6	6	7
期末	6	7	8
合計	12	13	15

株価・株式売買高の推移(東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用ください。

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/>



当社ホームページでは、プレスリリースや中期経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

三菱ケミカル

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及びお問い合わせ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

IR NAVI アイアール ナビとは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報 (IR情報) をよりわかりやすく株主の皆様へナビゲート (道案内) していきたいという意味を込めております。



株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けいただく必要がございます。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められた通り、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な
支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

単元未満株式 (1株~99株) をお持ちの株主様へ

単元未満株式 (1株~99株) とは当社の最低売買単位である1単元 (100株) に満たない株式のことをいいます。単元未満株式 (1株~99株) については、証券市場で売買することはできません。

単元未満株式をお持ちの株主様は、市場価格で、単元株式 (100株) にするために必要な株数を当社からご購入 (買増制度) または単元未満株式を当社に対しご売却 (買取制度) いただくことができます。

上記に関する
お問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主様
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)